

東日本大震災 全日本民医連支援ニュース

現地の仲間・住民と連携し「民医連ここにあり」の心意気でともに力を合わせて頑張らしましょう！

NO. 50 2011.6.14 発 全日本民医連対策本部

Mail : taisaku-honbu@min-iren.gr.jp

◇震災から3ヶ月＝長期的な取り組みを＝◇

大震災・原発事故から三ヶ月以上が経過しました。しかし未だ八千人近くが行方不明であり、原発事故の収束の目処も立っていません。全日本民医連は宮城と南相馬への「心のケア」チームの支援(のべ408人)を除き、全国的な医療・介護の支援が五月末をもって終了しましたが、今も、現地では自治体と連携し合って介護などの支援が続けられ、また、不安を抱える住民への原発問題での学習会がすすめられています。全日本民医連として今後、仮設住宅への医療・介護支援や健康調査などを行っていく予定です。また、義援金も三億円を超えました。放射線測定器の購入や被災者に有効に活用されるようにしていきます。震災後の事態は明らかに失政の影響が色濃く影響しています。ある自治体では義援金を収入認定し生活保護を打ち切るようなやり方を行っています。支援とたたかいは続きます。長期を見通した取り組みを続けましょう。

全日本民医連会長・震災対策本部長 藤末衛

住民本位の復旧・復興を！政府は直ちに第二次補正予算を編成せよ！

6. 9医団連院内集會に200人！

200人あまりが集まった緊急院内集會には、岩手・宮城・福島の仲間も参加しました。公的病院の統廃合・高齢化・医療過疎の問題が深刻な中での被災で、これまで抱えていた医療問題が一挙に顕在化したこと、福島原発は一向に収束に向かう見通しがなく住民の不安は図り知れない、多くの医療機関が被災しており、民間医療機関への公的助成が必要、など次々に被災地の窮状と国の支援の必要性を訴えました。長瀬事務局長は、「仮設住宅への入居が始まっているが、阪神淡路大震災では仮設住宅入居後に900人もの孤独死、震災関連死、自殺があった。被災地に寄り添う支援をしながら、憲法に基づいた政治への転換を求める運動を強める必要がある。」と挨拶しました。この日は終日、厚労省・財務省・文科省交渉、議員要請行動が取り組まれました。

6.11近畿総行動デー(宮城・山元町)300人のボランティア参加で大成功！！

医療福祉生協連近畿ブロック有志、民医連近畿地協が中心に準備してきた6.11総行動デーは、全国から300人が参加し大成功！！泥だし、がれき撤去、仮設住宅での炊きだしを行いました。宮城・セントラルキッチン、県南医療生協の仲間は炊き出し支援。医療生協さいたまのチームは、長町病院の地域で津波に流されたカルテ回収に取り組み、4トントラック一杯の回収を終えました。

大勢のボランティアの力は大きく、さまざまな作業が一挙に片付き、目途がつき、被災者に大きな希望と展望を与えることができました。これからも、生活再建へ寄り添う支援活動を続け、支援の輪を広げていきましょう。準備された近畿の皆さん、参加された皆さん、本当にお疲れ様でした！！

☆6/11付「しんぶん赤旗」関西版に紹介されました。添付ファイルをご覧ください。

6/11、岩手・宮城・福島に第二次義援金をお渡ししました！

6/11、吉田副会長・長瀬事務局長が岩手県・宮城県・福島県を訪問し、第2次義援金として三千万円(一次分との合計で各四千万円)を手渡し、復興状況や今後の課題について意見交換しました。この訪問には各県連の代表も同行しました。福島では地元紙2社から取材を受けました。



- * 支援者到達 (5月末) : 2,615人 (医師414、薬剤師140、看護師743、技術系537、事務他781) 延べ数は12,375人となりました！*未報告のところは、ご報告よろしくお願ひします。
- * 支援募金到達 : 3億円を超えました！

◇「東日本大震災 全日本民医連支援ニュース」は、今回で一旦終了としますが、支援はまだ必要です。各地で創意工夫をこらした支援活動、また被災地から他県に避難されている人々への地元での支援活動、行政への働きかけなど、大いに取り組んでいきましょう！！◇

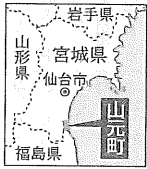
片づけ作業に汗を流すボランティアの青年たち＝宮城県山元町



震災の現場から

宮城・山元町に常駐

兵庫・尼崎医療生協



尼崎医療生協が最初に被災地に入ったのは、4月上旬。山を隔てた柴田

物資届けると

「1カ月も着替えていない。衣類が行き届いていないことを目の当たりにします。町長は1回も避難所を訪れておらず、震災当日の防災無線放送もありませんでした。」

同月7日深夜、宮城を震度6強の余震が再び襲いました。「生活支援を継続しなければ...」10日、尼崎

東日本大震災で町民の4.6%（宮城県内平均0.4%）、600人以上が死亡した山元町。兵庫県の尼崎医療生活協同組合（船越正信理事長）は、5月から現地に事務所を設置して常駐体制をとり、被災者の支援と復興に全力をあげています。

同町は奥畿南端、太平洋に面しています。周りに高い山や建物はなく、町は大急波で壊滅状態となりました。

近畿

ニュース、写真、催し案内などのご連絡は下記へ

赤旗関西総局
電話 06(6761)5079
ファクス 06(6761)6107

日本共産党
府県委員会
大阪 06(6762)8771
京都 075(211)5371
兵庫 078(577)6255
滋賀 077(522)8210
奈良 0742(35)5811
和歌山 073(425)4111

続く被災者の困難

生活・医療支援続ける

経験者として

瀬井さんは「阪神・淡路大震災を経験した地として『ほっとかれへん』との思いでいっぱいです。被災地へ行けないときは尼崎で震災募金をや

から同町に向かいます。行政やボランティアセンターが受け入れなくても行こうと判断しました。組合員活動部の瀬井宏幸部長は、柴田町のボランティアセンター開設や被災者の要望をくみ上げる常駐体制づくりに奔走しました。5月1日から現地責任者を配置してい

バスに道具を積み込む震災ボランティアの人々＝10日、兵庫県尼崎市



はの救援活動をすすめます」と福島さん。同町の日本共産党議員で被災者救援に走り回る遠藤龍之さんと連携し、ボランティアの仕事をくりにも努力しています。「お手伝いすることはありませんか」と声をかけると、遠藤さんになる住民も少なくありません。「遠藤はいりませんよ」と優しく言をかけています。土日など休日を利用して活動する週末ボランティアは、避難所や仮設住宅を訪ね、引越しや手助けが必要な人を探しています。歩くには遠いスーパーへ買い出しに行けるように、中古自転車50台を現地の人たちに託しました。「ボランティアが来てくれて、生きようと思った」と多くの被災者が支援活動を書きました。こころが勇気をもった「もう一度行きたい」と語るボランティアたち。震災から3カ月目の6月11日、民医連近畿地協と医療福祉生協連近畿ブロックが主に山元町で「近畿総行動デー」を実施します。兵庫や大阪、京都、奈良から233人のボランティアが大型バス9台で参加します。10日夜、尼崎では41人が小雨交じりのなか出発しました。小・中・高の子どもたちと被災地へ行く看護師の土田由美さん(46)＝大阪府吹田市＝は「少しでも現地の人たちの力にならなくては参加しました。子どもたちには震災の恐ろしさや大変さを感じてほしくて連れていきます」と話します。11日の「総行動デー」に先立って、同町を訪ねた震災対策本部の杉山貴土さんは「医療と介護、福祉にかかわる医療生協は、被災した人たちに寄り添い、ことごとく力になりたい」と話しています。(大串昌義)

ひかれました。直接現地に行き、何か手助けしたい思いがずっとありました。募金は720万円寄せられました。同町での取り組みをめぐると、尼崎医療生協専務理事で震災対策本部副本部長の福島哲さんは、日本医療福祉生協連神・淡路を経験し、地域医療を担う私たちならで